

# 金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

## ラグビーW杯の髭面対決 結末は

### わたし色

生活情報誌「悠悠と。」  
編集長・真鍋康利さん



思い出します。

いやあ、ラグビーW杯、日本代表の活躍、健闘はすごかったですね。大いに楽しませてもらいました。準々決勝で惜しくも敗れましたが、毎試合、ワクワクドキドキしながら引き込まれ、テレビにかじりついて見てしまいました。

「4年に一度じゃない。一生に一度だ」のキャッチフレーズ通り、しばらくは日本に來ないでしょうが、こうした熱戦を茶の間でも見られるのはありがたいばかりです。

そんな中、あることに気づきました。髭面の選手が多いことです。日本代表では、北海道に縁のあるリーチ・マイケル主将を筆頭に、堀江選手、ラファエレ選手、マフィ選手らは、口髭、あご鬚も立派な本格派。口もあごも少しおとなし目の稲垣選手、松島選手、田中選手らは、手入れも行き届いているようです。

あご鬚だけのイケメン田村選手と福岡選手は、少し似た感じもします。中島選手は白が際立ち、どの選手も強そうです。

実は私も髭を生やしていたことがあります。時代劇か何かで見た「ちょっと髭をあたってくれ」という言い方が気に入って、その言葉を吐きたがために始めました。3カ月

ほど外洋に出る機会を利用したのです。しばらくは無精髭にしか見えませんが、そこを我慢するとそれなりになるものです。まだ存命だった母親はどても嫌がりましたが、父親は「若い頃自分も生やしたものだ」と結構喜んでいました。

転職の面接にも髭面で行ったのですが、後日、電話で、「そろそろ合格」との連絡があり、もちろんそりました。入社後、一緒に中途入社した仲間が「面接に髭面がいたが、よくあんな顔で来るな。入社したいと思わなかったのだらうか」と話しかけてきました。「あれは俺だ」と言ったら、大変驚いていたことを

さてW杯。4強に残ったのはさすが本場のトップチームばかり、その肉弾戦たるや、ものすごい迫力があります。あれでよくむち打ち症にならないものだと感じしきりです。小柄な選手が岩のような大男に果敢にぶつかっていく姿にも感動しますね。

前回、髭は自由人の象徴、男のロマンと書きましたが、もう一つ、強さの鼓舞にも感じます。4強のチームにも髭面選手がそろい、いずれも強そうです。決勝は日本に勝った南アフリカと、元日本代表ヘッドコーチのエディ・ジョーンズ監督率いるイングランドの対戦。これ、実は髭面対決と見ました。髭の濃い選手は南アフリカのほうに少し多いように見えますが、どうなりますか。